

## 第37回日本保健医療行動科学会学術大会を振り返って 第37回大会長 馬込武志

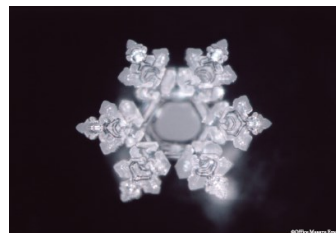
第37回日本保健医療行動科学会学術大会が、2023年6月17日(土)、18日(日)の両日東大阪大学にて開催されました。東大阪大学。略して、東大阪大。東京大学と大阪大学の両方が入っているすごい名前の割には、最寄駅から徒歩18~20分と交通の便が悪く、果たして参加者はいるのかと危ぶまれました。3年ぶりの対面での開催ということもあってか、89名の参加と100名には届きませんでした。大勢の方にお越しいただきました。感謝いたします。

大会テーマは「未来志向の保健医療行動」でした。このテーマを思いついたのは、以下のような思いがあったからです。以前から医療は患者の家族の生き方、強いて言えば「人生」にちょっかいを出している。医療者はどんなに頑張っても患者のキーパーソンにはなれません。患者の人生の重大な選択とも言える場所に、重要な他者として現れるにも関わらず。患者、家族のその後の生き方、人生にまで目配りを成していないのではないかというのが私の思いです。その思いから問題提起をさせていただきました。

今回の体験学習ワークショップは、他者と関わる技術として、自分を客観化することを中心に組み立てました。患者に対して、まず自分の状態を良くする「マインドフルネス」、自分の感情に左右されない「アンガーマネジメント」、さらには描くことを通して客観化をする「グラフィックファシリテーション」と自分の立ち位置をしっかりと意識しての「言葉かけレッスン」とつながります。参加者がすべてのワークショップにほぼ均等に分かれられました。医療者・患者のコミュニケーションの問題を網羅出来たからではないかと自負しております。

研究発表は、口頭発表11題、ポスター発表6題と若干少ない感じがしますが、その分、時間を十分にとって議論できたのではないかと思います。発表に対する質問やコメントは、問題点を突いたり、研究の限界をことさらに指摘したりするのではなく、共に学び合い、さらに研究が進むように行われるとても「温かいもの」です。今回の大会でも感想にそのようなコメントをいただいております。この学会の「伝統」が守られていること嬉しく思いました。

交流集会におきましては、学会指定の「職種間理解のための対話的プログラムを体験してみよう」、大会長指定の「量子論やホーリズムの観点から保健医療行動科学の未来を語る」と題して行われました。思いのほか(!)多くの方々にご参加いただきました。保健医療の分野は「命を守る・救う」という目標がしっかりあるために、医療者自らが、その目標や行いを相対化することに困難が生じます。あるいは、相対化しようと思わないかもしれません。しかしながら、よりよい実践のためには、自らの行いや目標を一度、相対化(客観化)し、見つめ直すことが必要です。これらをテーマに取り上げて交流集会ができる医療系・保健系の学会はなかなかないと思います。(次項へ続く)



第37回日本保健医療行動科学会学術大会  
未来志向の保健医療行動

会期 2023.6.17(Sat)18(Sun)

会場 東大阪大学 東大阪市西築学園町3-1-1

PROGRAM

- ▶ 基調講演「未来志向の保健医療行動」馬込武志(第37回大会長、東大阪大学)
- ▶ 特別講演「ストレスの正体」中川 暁(東横国立大学、NPO法人メンタルヘルスマネジメント)
- ▶ シンポジウム「なぜ私たちは継続できない話を続けるのか」川邊 隆幸、川邊 正和(東横国立大学)
- ▶ 体験学習ワークショップ(他者と関わる技術)「アンガーマネジメント」中川 暁(東横国立大学)
- ▶ 「マインドフルネス」喜田 智恵(NPO法人メンタルヘルスマネジメント)
- ▶ 「おだいせ」だけでは済まない言葉かけレッスン」藤田 隆樹(東横国立大学)
- ▶ 「グラフィックファシリテーション」長野 亮(東横国立大学)
- ▶ 一般課題(口頭発表・ポスター発表)
- ▶ 交流集会(学会指定・一般公募企画)



プログラム内容は変更される  
ことがあります。最新情報は  
第37回大会Webサイト  
に掲載されますので、そちら  
を確認してください。

主催：日本保健医療行動科学会  
実行主体：第37回日本保健医療行動科学会学術大会実行委員会  
第37回日本保健医療行動科学会学術大会実行委員会事務局  
連絡先：37@hbs-japan.com  
郵便物発送先：〒527-0847 東大阪大学西築学園町3-1-1 東大阪大学保健医療行動科学会

特別講演では、市民公開講座として中川晶先生に「ストレスの正体」を題し、ご講演をいただきました。ただ話を伺うだけでなく、ワークショップ形式でストレスについてのお話しを進められて参加者のみなさんも楽しみながらも興味津々な様子が伺えました。このような形式での講演は、市民公開講座にぴったりでした。また、大学でベストティーチャーの表彰を受けられた中川先生のお話の巧みさもあってのことでもあります。

シンポジウムでは、「なぜ私たちは縁起でもない話を避けるのか」と題しまして、医療法人綾正会かわベクリニクの川邊綾香先生、川邊正和先生にお話しいただきました。医療者も一般の人どうしても避けがちな自らの死に際を考えることからどう生きるのかというお話しでした。特にがんでターミナルの患者の訪問看護・診療を行なっておられる先生方ですので、事例から紡ぎ出された説得力十分でした。

最後に。とにかく、実行委員会メンバーの意識の高さに舌を巻きました。控室で談笑をしていますが、自分で仕事を見つけて出ていかれる。まさに「実行」委員会でした。さらに、すべての日程が終了して片付けの早いこと、早いこと。会計に至っては、帳簿と現金がぴったり。ふつう若干の誤差が出て、計算し直したりするものですが。神業ですね。参加されていた実行委員会メンバーのみなさんが自分ごととしてこの大会に参加されていたことの証左だろうと思います。しかもみなさん、愉快で、温かい。

きっとこのスタッフの雰囲気大会にも影響していたのでしょう。大会の雰囲気についても参加者の方からお褒めの言葉をいただきました。まさに、「地の利は人の和に如かず」(孟子)でした。

次回の学術大会は2回連続関西での開催になりまして、京都での開催です。次回の学術大会 よかったらおいいな。

### 第38回日本保健医療行動科学会学術大会のご案内(第1報)

<期 日> 2024 年10 月(予定)

<テーマ> ウェルビーイングと行動科学(仮)

<大会長> 任 和子(京都大学大学院医学研究科)

<会 場> 京都大学医学部人間健康科学科(予定)

<主なプログラム(予定)>

基調講演、特別講演、シンポジウム、ワークショップ、一般演題  
発表等

※詳細は本学会の Web サイトに順次掲載予定

### e メールアドレス登録の【重要なお願い】

会員管理システムの導入に伴い e メールアドレスの登録が必須となりました。e メールアドレスが未登録の方は、すみやかに学会事務局(info@jahbs.info)までお知らせください。すでに e メールアドレスをご登録いただいている場合の変更は、会員管理システムからご自身で可能です。

## 第 37 回日本保健医療行動科学会学術大会 報告

大会参加者(大会参加登録者数)89 名

(内訳:会員 57 名、学部学生 0 名、大学院生 9 名、非会員 12 名、市民公開講座のみ参加11名)

以下、大会に参加された方の感想をWeb アンケートより一部抜粋してご紹介します。(アンケート回答者18名)

### 1.大会の全体評価(0~10 点満点) 平均 8.05 点

### 2.プログラムで興味深かったもの

- ・【基調講演】未来志向の保健医療行動
- ・【特別公演】ストレスの正体
- ・【シンポジウム】なぜ私たちは縁起でもない話を避けるのか
- ・ワークショップ、交流集会など

### 3.感想(抜粋)

#### <基調講演>

- ・馬込先生の過去なきにして未来語れずの言葉に感銘を受けました。私自身が行う研究でも制度の成立課程を重視して、そこから今、そして未来にどう制度が進んで行くのかを大切にしたいです。
- ・現状の問題が解決したらよい。その先その方はどうなるかを考えていないのでは？の指摘は、今の医療の問題を端的にとらえています。その人の疾患を治す、病の人を癒しその将来を考えるは、医療の永遠の課題のようです。一方で、現状の疾患が治癒あるいは進行停止しないと何の意味があるのとなります。難しい。
- ・過去をみて未来を考える、逆も同じで望む未来があるなら今はどうあるべきかということについてもっとディスカッションできればと思いました。

#### <特別講演>

- ・セリグマンの実験ではないですが、うつ、など過剰な刺激は自身などやる気を喪失させるデメリットがある大きいと感じました。考え方など、ナラティブ含めた講義を受けたいと思います。
- ・かつての中川米造先生の講演を彷彿とさせるご講演でした。内容は、高橋暁正の「三た論法」の雰囲気的事例を話され、私的には仏教でいう「自縄自縛」がストレスの正体の要因と理解しました。隣の人と行った「囚人のジレンマ」のジャンケンも相手がパーを出さなかったので高得点にはなりませんでした。

#### <シンポジウム>

- ・ACPの重要性とポイントについて理解しました。また、同じ看護職として、綾香先生がご家族の体験を起点に、医師である正和先生と開業し、エンドポイントにある患者さんと家族の方の支援をされていることに感銘を受けました。行動力と信念の強さに感服いたしました。
- ・元気なうちに考える大切さ、私の研究と重なる点もあり自分事として人が捉えて概念についてもっと考えたいと思います。東大阪プロジェクトになにか一緒にできることがあれば幸いです。
- ・今だからこそできる話から逃げていたことに気づかされました。充実した人生の実感につなげる為に必要なことを学ばせていただきました。
- ・今回の大会で、最も心に残り、考えさせられた講演であった。普段タブー視し、なかなか勇気を持って考えることができない内容であるため、繰り返し拝聴したいテーマでもある。

## <一般演題・ポスターセッション>

- ・大事な臨床のエッセンスに気づかれていますご発表が多いと思いました。
- ・いろいろと勉強になりました。発表時間は、もう少し(5分)程長いとよかったと思う会場もありましたが、逆に充分あった会場あり、この自由度は、この学会のいい点と思いました。
- ・発表した身として、さまざまな方からご意見を頂き、研究の糧となったことに感謝です。ぜひとも学会誌での投稿に反映したい考えです。
- ・個人的には、演者・参加者が直接ディスカッションできるポスター発表が好きです。今回も自分が普段参加する領域の関連学会では目にしない研究に触れることができました。

## <ワークショップ>

- ・ワークショップ I ①「アンガーマネジメント」  
後悔しないこと、というのが気づきでした！。要点が押さえられていて分かりやすかった。
- ・ワークショップ I ②「マインドフルネス」マインドフルネスの概要とエビデンスについて、理解できました。  
日常生活にも取り入れやすく、脳のトレーニングとして効果があるということなので、早速毎日実践しています。
- ・ワークショップ II ③「‘おだいじに’ だけでは済まない言葉かけレッスン」  
相手を思いやる視点を意識していこうと思いました。
- ・ワークショップ II ④「グラフィックファシリテーション」  
吹き出しのような文の書き方やイラストをクライアントと共有しながら、聴きつつ描き進めることの効果を学びました。ペアで体験していた方から、ワークショップの後にいろいろ身の上話をききました。これも自己開示の一つの効果かなと感じました。

## 【学会指定】交流集会「職種間理解のための対話的プログラムを体験してみよう！」

- ・リフレクティングの手法を体験し学びました。実際に自分が考え話していることについて、コメントをいただくことは珍しいため、緊張しましたが、良い経験になりました。他の職種の方の対話も聞いてみたいです。
- ・視点の違いで新たな発見が得られることに気づきました。

## 【大会長指定】交流集会「量子論やホーリズムの観点から保健医療行動科学の未来を探る」

- ・保健医療関係者の言葉には慈愛が必要だな、と思いました。自分自身もよい言葉を使おうと思いました。
- ・怪しく面白い話で興味が湧きました。

## 4.次年度の大会に向けて関心があるテーマ等

- ・「保健医療における行動科学とは」原点に戻り、具体的の感じられ、考え、気付く、わかるお話がして頂けるものをお考え下さればと思います。
- ・ヘルスケアワーカー(医療・福祉関係の従事者)の行動変容に関する内容
- ・スポーツにおいて、よい言葉かけが何故良い成績につながるのか？
- ・最近のコスパ/タイパの追求の是非論
- ・保健医療領域の教育における行動科学の取り扱いについて など

この度は、日本保健医療行動科学会第 37 回学術大会の開催にあたり、当日のご参加、ならびに、開催に向けて多大なるご協力を頂きました全ての皆さまに御礼申し上げます。久しぶりの対面開催ということで、色々にご不便をおかけしたことも多かったと存じますが、何卒ご容赦頂けましたら幸いです。

(第 37 回大会事務局)

# 日本保健医療行動科学会 第38回(2023年度)総会報告

第38回(2023年度)総会が2023年6月17日(土)に東大阪大学において開催されました(第37回学術大会第1日目)。諏訪茂樹会長による開会宣言で始まり、次に馬込武志第37回学術大会長の挨拶があり、その後、総会の議長に村田正章氏、書記に小田和美氏が選出されました。

総会では、まず、第1号議案:2022年度事業報告(総会資料1)と第2号議案:2022年度収支決算報告(総会資料2)が行われ、監査報告(総会資料2)として「事業及び会計が適正に行なわれている」との報告が行われました。次に、第3号議案:2023年度事業計画(総会資料3)と第4号議案:2023年度予算案(総会資料4)が説明されました。さらに、第5号議案:「利益相反に関する指針」及び「利益相反委員会規定」の新設(総会資料5)と第6号議案:「中川記念奨励賞内規」及び「選考内規」の改訂(総会資料6)の説明がなされ、以上の全ての審議事項において、質問・修正なく、承認となりました。また、報告事項として、第13期役員・委員会構成の一部変更について(総会資料7)説明の後、議長団の解散となりました。

総会に引き続き、支部活動報告として東京支部より第108回研究会と第109回研究会の実施報告があり、また、近畿支部より第138回研究会を開催予定であるとの報告がありました。次に、第38回学術大会の任和子大会長(京都大学)よりご挨拶があり、最後に2023年度中川記念奨励賞及び奨励研究員について、いずれも2023年度の応募はなく、2024年度について募集中であるとの報告がありました。

## 第1号議案:2022年度事業報告(総会資料1)

### 1. 第36回学術大会・総会の開催

テーマ:対話と保健医療 大会長:樋口倫子(明海大学)

期日:2022年6月18日(土)・19日(日)

会場:オンラインによる開催(Zoomによるリアルタイム配信)

### 2. 第37回学術大会・総会の開催準備

テーマ:未来志向の保健医療行動 大会長:馬込武志(東大阪大学)

期日:2023年6月17日(土)・18日(日)

会場:東大阪大学

### 3. 機関誌(雑誌)の発行

雑誌 第37巻1号『保健医療の行動科学再考』(2022年8月発行)

雑誌 第37巻2号『対話する保健医療』(2023年2月発行)

### 4. 機関誌(雑誌)の発行準備

雑誌 第38巻1号『保健医療の研究倫理(仮)』(2023年6月発行予定)

雑誌 第38巻2号『未来志向の保健医療行動(仮)』(2023年12月発行予定)

### 5. ニュースレターの発行

第105号(2022年9月)、第106号(2022年12月)、第107号(2023年3月)

※第4回理事会での決定により、第106号より紙媒体を廃止し、PDF版のみとなった。

### 6. 理事会の開催(6回)

第12期第16回(2022年5月22日)(オンライン会議)

第13期第1回(2022年6月18日)(オンライン会議)

第13期第2回(拡大)(2022年6月18日)(オンライン会議)

第13期第3回(2022年8月14日)(オンライン会議)

第13期第4回(2022年11月23日)(オンライン会議)

第13期第5回(2023年2月19日)(オンライン会議 2023年度事業)

### 7. 顧問・評議員会の開催(1回)

期日:2022年6月18日(土)(オンライン会議)

### 8. 企画運営委員会の活動等

#### 1) 学会企画共同研究:

・1回/月以上のオンラインによる研究会の実施。

・第36回学術大会にてシンポジウム「相互理解で多職種連携は深化する—リフレクティングの活用によるフィジビリティスタディ」を開催し、成果報告。

・第37回学術大会にて、交流集会「職種間理解のための対話的ミーティング」実施予定。

2) 第2回オンライントーク「患者家族会の活動を通して思ったこと—活動の意義, 困難, 秘訣」実施(2022年11月13日)

3) 教科書『講義と演習で学ぶ保健医療行動科学(第2版)』(雑誌第36巻別冊) 第2刷増刷(2023年3月)

### 9. 中川記念奨励賞の選考(2022年度応募者なし)・募集(2023年度応募者なし)

### 10. 奨励研究員の選考(2022年度応募者なし)・募集(2023年度応募者なし)

### 11. その他

1) 「利益相反審査委員会規定」及び「利益相反指針」の作成(第4回理事会)

2) 「中川記念奨励賞内規」及び「選考内規」の改正(第5回理事会)

3) 学会Webページのリニューアルと公開(第6回理事会後)



中川晶作  
～おひなさま～

第2号議案：2022年度収支決算報告および監査報告（総会資料2）

2022年度予算		2022年度決算	
収入の部 (単位：円)		収入の部 (単位：円)	
年会費 (7,000*360、5,000*20)	2,620,000	年会費 (7000*370、5000*28、3000*4)	2,742,000
機関誌(雑誌)売上	200,000	機関誌(雑誌)売上	338,579
		36回大会補助費還付	308,923
前年度からの繰越金	2,487,202	前年度からの繰越金	2,487,202
利息	4	利息	4
その他	0	その他	0
合計	5,307,206	合計	5,876,708
支出の部 (単位：円)		支出の部 (単位：円)	
機関誌(雑誌)発行費	900,000	機関誌(雑誌)発行費	354,750
印刷費	180,000	印刷費	85,995
人件費 (69,600/月*6 + 52,800/月*6 + 2021年度時間外勤務分割払分 97,150)	831,550	人件費 (69,600*6+53,975*6+所得税半期分 5,115+2021度時間外勤務分割払分 97,150+2022超過勤務分 162,902)	1,006,617
通信連絡費	300,000	通信連絡費	196,160
消耗品・備品費	30,000	消耗品・備品費	18,780
会議費 (理事会等交通費 200,000、ZOOM・Google Workspace 等利用料 30,000)	230,000	会議費 (ZOOM・Google Workspace 等利用料)	36,455
第37回学術大会補助費	600,000	学術大会補助費 (37回大会補助費 600,000)	600,000
支部活動補助費	0	支部活動補助費	0
学会事務所運営費	90,000	学会事務所運営費 (私書箱契約 65,824+レンタルスペース代 60,000)	125,824
編集委員会費	50,000	編集委員会費	27,273
雑誌投稿・審査システム運用費	220,000	雑誌投稿・審査システム運用費	220,000
中川記念奨励賞副賞	0	中川記念奨励賞副賞	0
学会webサイト運営費 (サーバー等 16,000・Webサイト移設等)	216,000	学会webサイト運営費 (サーバー等 15,953・HP作成アプリ 10,945)	26,898
会員管理システム運用費	450,000	会員管理システム運用費	431,322
企画運営委員会活動費	500,000	企画運営委員会活動費	163,216
予備費	709,656	次年度への繰越金	2,583,418
合計	5,307,206	合計	5,876,708

※次年度繰越金を除く支出合計 3,293,290 円 (収入合計 5,876,708 円 - 一次年度繰越金 2,583,418 円)

2022年度特別会計 (2023年3月31日現在 2021年度末特別会計残高 1,847,976 円)

事業費積立金残高	1,418,749 円	2022年度収入合計 202,533 円 (教科書売上 202,520 円、利息 13 円) 2022年度支出合計 631,760 円 (教科書制作・増刷・発送代 629,319 円、振込手数料 2,440 円、利息 1 円)
----------	-------------	--

2022年度監査報告

<p>会則第20条に基づき、事業報告及び収支決算の監査を実施しましたので報告します。</p> <p>1. 監査対象 ①2022年度事業報告 ②2022年度収支決算</p> <p>2. 監査報告 上記のとおり、納入、支出がなされ、証拠書類の保存、整理及び帳簿への記帳は良好であったことを承認します。</p> <p>2023年6月17日</p> <p style="text-align: right;">監 査 河 口 てる 子 花 家 薫</p>	
---	--

### 第3号議案:2023年度事業計画(総会資料3)

1. 第37回学術大会・2023年度総会の開催  
テーマ:未来志向の保健医療 大会長:馬込武志(東大阪大学)  
期日:2023年6月17日(土)・18日(日)  
会場:対面(東大阪大学)
2. 2024年度総会の開催準備  
期日:2024年6月(日)  
会場:オンライン  
(※総会前に拡大理事会、顧問評議委員会を開催する)
3. 第38回学術大会の開催準備  
テーマ:未定 大会長:任 和子(京都大学)  
期日:2024年10月(土・日)  
会場:対面(京都大学)
4. 第8回国際保健医療行動科学会議開催の検討  
期日、開催地は未定
5. 機関誌(雑誌)の発行  
雑誌 第38巻1号『保健医療の研究倫理(仮)』(2023年6月発行予定)  
雑誌 第38巻2号『未来志向の保健医療(仮)』(2023年12月発行予定)
6. 機関誌(雑誌)の発行準備  
雑誌 第39巻1号(2024年6月発行予定)  
雑誌 第39巻2号(2024年12月発行予定)
7. ニュースレターの発行  
第108号(2023年8月), 第109号(2023年12月), 第110号(2024年3月)(予定)
8. 理事会の開催(5回)  
第13期第6回(2023年5月21日)(オンライン会議)  
第13期第7回(拡大)(2023年6月17日)(対面会議)  
第13期第8回(2023年8月11日)(オンライン会議)(予定)  
第13期第9回(2023年11月)(オンライン会議)(予定)  
第13期第10回(2024年2月)(オンライン会議)(予定)  
※いずれか1回は対面開催を検討予定
9. 顧問・評議員会の開催(1回)  
2023年6月17日(土)(対面会議)
10. 企画運営委員会の活動等  
・学会企画共同研究  
・オンライントーク・シンポジウム等の開催検討  
・教科書第2版の増刷  
・学会Webサイト更新  
・雑誌の電子化(J-STAGE、DOIなど)の検討  
・理事・監事選出規約等の改定の検討
11. 中川記念奨励賞の選考(2023年度応募者なし)・募集(2024年度)
12. 奨励研究員の選考(2023年度応募者なし)・募集(2024年度)



中川晶作  
～子どもの観音～



中川晶作～不動明王と冥界の子どもたち～



中川晶作～少女観音たち～

第4号議案：2023年度予算案（総会資料4）

収 入 の 部		(単位：円)
年会費（通常 7,000*352、大学院 5,000*25、学部 3,000*1）		2,592,000
機関誌（雑誌）売上		200,000
前年度からの繰越金		2,583,418
利息		4
その他		0
	合 計	5,375,417
支 出 の 部		(単位：円)
機関誌（雑誌）発行費		900,000
印刷費		180,000
人件費（55,680/月*12 + 時間外勤務分 152,000）		820,160
通信連絡費		400,000
消耗品・備品費		330,000
会議費（理事会等交通費 200,000、ZOOM・Google Workspace 等利用料 30,000）		230,000
学術大会補助費		300,000
支部活動補助費		0
学会事務所運営費（書類保管スペースレンタル 10,000/月*12、MT 私書箱センター年間利用料）		174,450
編集委員会費		50,000
雑誌投稿・審査システム運用費（運用費 220,000）		220,000
中川記念奨励賞副賞		0
学会 web サイト等運用費（サーバー等 16,000）		16,000
会員管理システム運用費		450,000
企画運営委員会活動費		500,000
予備費		804,807
	合 計	5,375,417

2023年度特別会計（2022年度末特別会計残高 1,418,749円）

（参考）教科書印刷費 193,600円、振込手数料 660円、合計 194,260円は前年度執行

## 会員勧誘のお願い

会員の皆様には、本学会に興味や関心のありそうな方々に、本学会への入会をお勧めくださいますようお願いいたします。なお「日本保健医療行動科学会入会のご案内」は、本学会 Web サイト (<https://www.jahbs.info/>) からダウンロードができます。ご協力をよろしくお願い申し上げます。



## 第5号議案:「利益相反に関する指針」及び「利益相反委員会規定」の新設(総会資料5)

### 利益相反に関する指針(案)

#### 1. 目的

日本保健医療行動科学会(以下「本学会」という。)は、「人間の健康にかかわる行動(個人・集団・社会)の変容過程を実証的、体系論的に解明しようとする健康行動科学に関する研究・教育の発展のために、社会・人文科学・自然科学の各分野の国内外の研究や学習の場づくり」を目的とし、学術大会、研究会の開催、機関誌の発行などの事業を推進してきた。

本学会が、保健医療行動科学に関する学術活動を推進するためには、「保健医療行動科学に関連する企業・組織や営利を目的とした団体」との産官学の連携により取り組むことが求められるところであるが、その際に本学会の会員(以下「学会員」という。)として果たすべき責務と、学会員が個人あるいは所属する組織として得る金銭、地位、利権など(私的利益)との間に、利益相反(Conflict of Interest、以下「COI」という。)が発生することがある。このような COI に適切に対応しなければ、研究対象者、研修を受ける人々の人権や生命の安全・安心が損なわれ、研究の方法、データの解析、結果の解釈がゆがめられるおそれも生じる。また、適切な研究成果であるにもかかわらず、公正な評価がなされないことも起こりうる。

そこで、本学会では、COI に関する基本的な考え方を示すことによって、本学会の学術活動の透明性、中立性の確保、説明責任を果たすための適切な措置をとり、産官学が連携した学術活動を積極的に推進し、保健医療行動科学の発展を図るために「日本保健医療行動科学会利益相反に関する指針」(以下「本指針」という。)を定めるものである。

#### 2. 基本方針

(1) 本学会の使命である学術活動の責務を十分に果たしながら、学会員が「保健医療行動科学に関連する企業・組織や営利を目的とした団体」との産官学連携活動及び保健医療行動科学への貢献活動を積極的に推進できるよう、環境整備を図る。

(2) COIを未然に防ぐこと、またCOIが生じた場合に必要な措置を行うなど、利益相反マネジメントを実施する。

#### 3. 指針の適用となる対象者

COI状態が生じる可能性がある以下の対象者に対し、本指針が適用される。

(1) 本学会会員(通常会員、賛助会員、学生会員)

(2) 本学会の学術大会で発表・講演する者及び機関誌にて論文発表をする者

(3) 本学会の顧問、会長、副会長、理事、監事、評議員、学術大会長、各委員会委員

#### 4. 対象となる活動

対象者が行うすべての事業活動に対して、本指針を適用する。

#### 5. 「保健医療行動科学に関連する企業・組織や営利を目的とした団体」の定義

「保健医療行動科学に関連する企業・組織や営利を目的とした団体」とは、保健医療行動科学に関し、本学会と次のような関係を有する企業・組織や団体をいう。

(1) 保健医療行動科学に関する開発や研究を依頼し、または共同で行った関係(有償無償を問わない)

(2) 保健医療行動科学で評価される教材、機材などに関連して特許権などの権利を共有している関係

(3) 保健医療行動科学で使用される教材、機材などを無償もしくは特に有利な価格で提供している関係

(4) 保健医療行動科学に対して研究助成・寄付などを行っている関係

(5) 保健医療行動科学で開発中の教材や機材などを提供している関係



## 日本保健医療行動科学会雑誌 「投稿論文」随時受付中

学会雑誌に掲載する投稿論文は随時受け付けています。

雑誌の発行は年2回(6月及び12月の予定)です。

投稿原稿の種類は、原著論文、総説、研究ノート、資料、実践・活動報告です。

投稿論文は「オンライン投稿・査読システム(Editorial Manager®)」にて受け付けとなります。

投稿手順等の詳細は本学会 Web サイト(<https://www.jahbs.info/>)の

「『雑誌』投稿について」のページに掲載しています。

## 6. COI 自己申告の基準

本指針が適用される対象者個人が次の(1)～(8)に該当する場合であって、次の開示基準額を超える場合、あるいは開示基準事項に該当する場合には、当該個人は所定の様式に従って COI 自己申告をするものとする。

	開示基準額又は開示基準行為
(1) 保健医療行動科学に関連する企業・組織や営利を目的とする団体の役員、顧問職等に就任した場合	1つの団体からの報酬合計が年間 100 万円以上
(2) 保健医療行動科学に関連する企業・組織や営利を目的とする団体の株式等を保有した場合	年間利益(配当、売却額の総和)が 100 万円以上 又は 株式保有の場合、当該会社の発行済株式総数の 5%以上を保有 使用料が年間 100 万円以上
(3) 保健医療行動科学に関連する企業・組織や営利を目的とする団体に対し、対象者の有する特許権等の使用許諾、貸与をしている場合	年間 100 万円以上
(4) 保健医療行動科学に関連する企業・組織や営利を目的とした団体から、日当、講演料等の報酬を受け取った場合	1つの団体からの報酬合計が年間 50 万円以上
(5) 保健医療行動科学に関連する企業・組織や営利を目的とした団体から、パンフレットなどの執筆に対して原稿料等を受け取った場合	年間 100 万円以上
(6) 保健医療行動科学に関連する企業・組織や営利を目的とした団体が提供する、受託研究、共同研究、奨学寄附金などを受け取った場合	1つの研究に対して受領した金額年間合計額が 200 万円以上
(7) 保健医療行動科学に関連する企業・組織、営利を目的とする団体がスポンサーとなる寄付講座に所属している場合	所属
(8) (1)～(7)に定める場合以外で、保健医療行動科学に関連する企業・組織、営利を目的とする団体から報酬等(研究とは関係のない旅行、贈答品等含む)を受け取った場合	合計が年間 10 万円以上

## 7. 実施方法

- (1) 学術活動の成果を本学会の学術大会、研究会等で発表する場合、筆頭演者は当該研究に係る COI 状態を本指針に従って演題登録時に申告し、発表時に公開する。
- (2) 学術活動の成果を機関誌で発表する著者は、当該研究に係る COI 状態を本指針に従って確認し、論文投稿時に投稿規程にそって申告し、発表時に公開する。
- (3) 本学会の役員、学術大会長は、就任時に当該事業に係る COI 状態を自己申告によって開示する。また、就任後、新たに COI 状態が発生した場合には修正申告を行うものとする。
- (4) 学術大会長、研究会担当理事は、本指針に反する事態が生じた場合には、利益相反委員会に報告するものとする。利益相反委員会は疑義が発生した会員個人の COI 状態にかかる調査結果を理事会に報告する。学術大会長、研究会担当理事は、理事会での承認を得て、該当者にその内容に応じて改善や発表の差し止め、発表の撤回、機関誌などへの謝罪文の掲載を求める等の措置を講ずる。この場合、当該研究等の発表者に理由を付して、その旨を通知する。
- (5) 編集委員長は、本指針に反する事態が生じた場合には、COI 申告結果を利益相反委員会に報告するものとする。利益相反委員会は疑義が発生した会員個人の COI 状態にかかる調査結果を理事会に報告する。編集委員長は、理事会での承認を得て、著者にその内容に応じて改善や掲載の差し止め、論文撤回、謝罪文の掲載を求める等の措置を講ずる。この場合、当該研究等の発表者に理由を付して、その旨を通知する。

## 8. 本指針の改正

社会情勢や、産学官連携に関する法令の改正等により、本指針を改正する必要性が生じた場合には、理事会の決議により、本指針を改正することができる。

理事会承認日：2022年11月23日  
2023年6月17日制定

## 第6号議案:「中川記念奨励賞内規」及び「選考内規」の改訂(総会資料6)

### 中川記念奨励賞内規及び選考内規改正について

中川記念奨励賞委員会  
委員長 安酸史子

#### 1. 改正の理由

現行の奨励賞内規及び選考内規では、選考基準が厳しいため、研究者だけではなく教育者や実践家も受賞可能にすることができるように、奨励賞内規及び選考内規を見直し、基準のハードルを下げ、保健医療行動科学の発展に寄与する学術的研究あるいは教育を含む諸活動に貢献している若手の研究活動をより推進できるようにするため。

#### 2. 中川記念奨励賞内規の内容(新旧対照表)

現行	変更案
<p>1. (名称) 本賞は、日本保健医療行動科学会中川記念奨励賞(略称:中川賞)と称する。</p> <p>2. (目的) 本賞は、保健医療行動科学に関する学術的研究や諸活動を若い会員に奨励するために、優れた貢献をした者を表彰し、もって保健医療行動科学の発展に寄与することを目的とする。</p> <p>3. (受賞資格) 本賞の受賞者は、次の3条件をすべて満たさなければならない。</p> <p>1)日本保健医療行動科学会の通常会員であること。 2)保健医療行動科学に関する学術的研究あるいは教育を含む諸活動において、その業績が顕著であること。 3)受賞年度において45歳未満であること。</p> <p>4. (本賞の選考) 本賞の選考は、中川賞選考委員会が行う。</p> <p>5. (選考委員会の構成) 中川賞選考委員会を次のとおり定める。</p> <p>1)中川賞選考委員会は、日本保健医療行動科学会会長によって任命された8名の委員によって構成される。8名のうち4名は理事から、残りの4名は評議員から選出される。</p> <p>2)委員の任期は3年とする。</p> <p>3)中川賞選考委員長は、委員の互選によって決められる。</p> <p>6. (受賞者の選考) 選考に当たっては、日本保健医療行動科学会評議員ならびに編集委員会より優れた論文や活動業績の推薦を得て、それを参考にするものとする。</p> <p>7. (受賞者の推薦) 中川賞選考委員会は、日本保健医療行動科学会の通常会員の中から、毎年、若干名を中川賞候補者として選考した後、これを理事会に推薦しなければならない。</p> <p>8. (受賞者の決定) 理事会は、中川賞選考委員会から推薦された受賞候補者の中から受賞者を決定する。</p> <p>9. (賞の授与) 日本保健医療行動科学会会長は、日本保健医療行動科学会の年次大会の総会において、8によって決定された受賞者に対して、日本保健医療行動科学会中川記念奨励賞として賞状等を授与し、公示する。</p>	<p>1. (名称) 本賞は、日本保健医療行動科学会中川記念奨励賞(略称:中川賞)と称する。</p> <p>2. (目的) 本賞は、保健医療行動科学に関する学術的研究や諸活動を若い会員に奨励するために、優れた貢献をした者を表彰し、もって保健医療行動科学の発展に寄与することを目的とする。</p> <p>3. (受賞資格) 本賞の受賞者は、次の3条件をすべて満たさなければならない。</p> <p>1)日本保健医療行動科学会の通常会員であること。 2)保健医療行動科学に関する学術的研究あるいは教育を含む諸活動において、その業績が顕著であること。 3)受賞年度において45歳未満もしくは学会入会后10年未満であること。</p> <p>4. (本賞の選考) 本賞の選考は、中川賞選考委員会が行う。</p> <p>5. (選考委員会の構成) 中川賞選考委員会を次のとおり定める。</p> <p>1)中川賞選考委員会は、日本保健医療行動科学会会長によって任命された8名の委員によって構成される。8名のうち4名は理事から、残りの4名は評議員から選出される。</p> <p>2)委員の任期は3年とする。</p> <p>3)中川賞選考委員長は、委員の互選によって決められる。</p> <p>6. (受賞者の選考) 選考に当たっては、日本保健医療行動科学会評議員ならびに編集委員会より優れた論文や活動業績の推薦を得て、それを参考にするものとする。</p> <p>7. (受賞者の推薦) 中川賞選考委員会は、日本保健医療行動科学会の通常会員の中から、毎年、若干名を中川賞候補者として選考した後、これを理事会に推薦しなければならない。</p> <p>8. (受賞者の決定) 理事会は、中川賞選考委員会から推薦された受賞候補者の中から受賞者を決定する。</p> <p>9. (賞の授与) 日本保健医療行動科学会会長は、日本保健医療行動科学会の年次大会の総会において、8によって決定された受賞者に対して、日本保健医療行動科学会中川記念奨励賞として賞状等を授与し、公示する。</p>

現行	変更案
<p>10. (中川賞基金) 中川賞基金を次のとおり定める。 1) 日本保健医療行動科学会が主催する事業に伴う収入、ならびに2の目的で贈与される寄付金等の積立金をもって中川賞基金とする。 2) 中川賞基金を使用する必要が生じた場合は、理事会の承認を得なければならない。</p> <p>11. (改廃) 本内規の改廃は、理事会によって決議される。 ※本内規3.(受賞資格)の3)の年齢を「40歳未満」から「45歳未満」に改定 (2008.10.13.) ※本内規5.(選考委員会の構成)の2)の委員の任期を「2年」から「3年」に改定 (2013.6.22.)</p>	<p>10. (中川賞基金) 中川賞基金を次のとおり定める。 1) 日本保健医療行動科学会が主催する事業に伴う収入、ならびに2の目的で贈与される寄付金等の積立金をもって中川賞基金とする。 2) 中川賞基金を使用する必要が生じた場合は、理事会の承認を得なければならない。</p> <p>11. (改廃) 本内規の改廃は、理事会によって決議される。 ※本内規3.(受賞資格)の3)の年齢を「40歳未満」から「45歳未満」に改定 (2008.10.13.) ※本内規5.(選考委員会の構成)の2)の委員の任期を「2年」から「3年」に改定 (2013.6.22.) ※本内規3.(受賞資格)の3)を「45歳未満」から「45歳未満もしくは学会入会后10年未満」に改定 (2023.6.17.)</p>

### 3. 中川記念奨励賞候補者の業績についての選考内規の内容(新旧対照表)

現行	変更案
<p>日本保健医療行動科学会中川記念奨励賞内規 3 (受賞資格)の2)及び6(受賞者の選考)についての内規を次のとおり定める。</p> <p>1. 修士入学日(6年制学部卒業の場合は学部卒業の日)またはこれに準ずる日(本学会年次大会もしくは雑誌に単独もしくは連名以上で発表した日とする)をもって起算する研究歴が7年5年以上(6年制学部卒業の場合は5年3年以上)であること。 2. 本学会機関誌に掲載論文(1編は必ず First Author)が必ずあり、年次大会に2回以上First Authorで発表を行っていること。(2回共 First Author か Second Author 以下は2回を1回に換算する。) 3. 類似の学会誌・学会及び大会においても発表している。発表形式は2に準ずる。 4. 本学会関連の博士号を取得しているか又は博士論文作成の可能性(テーマから見て本学会に関連するものであること)があること。 5. 著書があれば参考とし(単著・共著等は問わない)、支部活動等にも協力的であること。 6. 特に社会的に問題となる行為(例:刑法犯歴)の無いこと。 以上の事項を参考にして選考に当たるものとする。 ※本内規1の「医歯系」を「学部が6年学系」に改定(2004.11.10.) ※本内規1の「学部が6年学系」を「6年制学部卒業の場合」に、2の「年報」を「機関誌」に改定(2013.6.22.)</p>	<p>日本保健医療行動科学会中川記念奨励賞内規 3(受賞資格)の2)及び6(受賞者の選考)についての内規を次のとおり定める。</p> <p><del>1. 修士入学日(6年制学部卒業の場合は学部卒業の日)またはこれに準ずる日(本学会年次大会もしくは雑誌に単独もしくは連名以上で発表した日とする)をもって起算する研究歴が7年5年以上(6年制学部卒業の場合は5年3年以上)であること。</del> 1. 本学会機関誌に掲載論文(1編は必ず First Author)が必ずあり、年次大会に1回以上First Authorで発表を行っていること。 (<del>2回共 First Author</del>か Second Author 以下は2回を1回に換算する。) 3. <del>類似の学会誌・学会及び大会においても発表している。発表形式は2に準ずる。</del> 4. <del>本学会関連の博士号を取得しているか又は博士論文作成の可能性(テーマから見て本学会に関連するものであること)があること。</del> 2. 著書があれば参考とし(単著・共著等は問わない)、支部活動等にも協力的であること。 3. 特に社会的に問題となる行為(例:刑法犯歴)の無いこと。 以上の事項を参考にして選考に当たるものとする。 ※本内規1の「医歯系」を「学部が6年学系」に改定(2004.11.10.) ※本内規1の「学部が6年学系」を「6年制学部卒業の場合」に、2の「年報」を「機関誌」に改定(2013.6.22.) ※本内規1を削除、2の年次大会に「2回以上」を「1回以上」とし、3と4を削除する改定(2023.6.17.)</p>

4. 改正案の施行日:2023年6月17日

理事会承認日:2023年2月19日

第13期 <任期:2022年6月1日~2025年5月31日 但し顧問は任期の定めなし>

<顧問>稲岡文昭(看護学)、仲尾唯治(社会学)、藤崎和彦(医学)、南 裕子(看護学)、宗像恒次(健康科学)、John Launer(ジョン・ローナー)(医学、英国)、Brian Hurwitz(ブライアン・ハーウィッツ)(医学、英国)

<会長>諏訪茂樹(社会学)

<副会長>岡 美智代(看護学)、樋口倫子(心理・福祉学)

<理事>梓川 一(心理・福祉学)、岡本響子(看護学 2022年9月4日~)、

上山千恵子(看護学 2022年9月4日~)、小林好信(健康科学)、酒井幸子(社会学)、

白土菜津実(看護学 2022年8月24日~)、末松弘行(医学)、中川 晶(医学)、任 和子(看護学)、

花家 薫(健康科学 2023年5月21日~)、蓮井貴子(看護学)、林 哲也(健康科学)、

深井穫博(歯学)、宮本眞巳(看護学)、安酸史子(看護学)、吉岡隆之(健康科学)

<監事>天野雅夫(社会学 2023年5月21日~)、河口てる子(看護学)

<評議員>上杉裕子(看護学)、大芦 治(心理・福祉学)、小田和美(看護学)、川村千恵子(看護学)、

小林昌廣(健康科学)、紺井拓隆(歯学)、佐藤富美子(看護学)、島井哲志(心理・福祉学)、

瀬在 泉(健康科学)、徐 淑子(社会学)、平 英美(社会学)、高橋さつき(看護学)、

藤内修二(医学)、久村正也(医学)、藤田裕一(心理・福祉学)、本庄恵子(看護学)、

馬込武志(社会学)、眞崎由香(看護学)、松田 聡(医学)、松原みゆき(看護学)、

道信良子(社会学)、村岡 潔(社会学)、村上 真(健康科学)、村田正章(医学)、元村直靖(医学)、守本とも子

(看護学)、山口 豊(心理・福祉学)、山崎裕美子(看護学)、吉村雅世(看護学)、

渡辺理和(社会学)

<顧問7名, 理事19名(会長・副会長を含む), 監事2名, 評議員30名>

#### 【編集委員会(常設)】

樋口倫子(委員長)、岡 美智代、岡本響子、上山千恵子、諏訪茂樹、瀬在 泉、任 和子、蓮井貴子、花家 薫、深井穫博、宮本眞巳、吉岡隆之

#### 【広報委員会(常設)】

岡 美智代(委員長)、小林好信、白土菜津実、林 哲也、

<ウェブサイト主担当>小林好信、<ニュースレター主担当>白土菜津実

#### 【国際交流委員会(常設)】

中川 晶(委員長)、岡 美智代、諏訪茂樹、樋口倫子、吉岡隆之

#### 【中川記念奨励賞選考委員会(常設)】

安酸史子(委員長)、梓川 一、末松弘行、宮本眞巳(以上、理事から選出)

上杉裕子、藤田裕一、本庄恵子、道信良子(以上、評議員から選出)

#### 【企画運営委員会(特別委員会)】

諏訪茂樹(委員長)、梓川 一、岡 美智代、岡本響子、上山千恵子、小林好信、酒井幸子、

白土菜津実、末松弘行、中川 晶、任 和子、蓮井貴子、花家 薫、林 哲也、樋口倫子、

深井穫博、宮本眞巳、安酸史子、吉岡隆之

<共同研究企画担当>岡 美智代、<教科書企画担当>諏訪茂樹、

<オンライントーク企画担当>林 哲也

## WEBページ更新のお知らせ

本年5月より学会HPをリニューアルいたしました。内容については、以前のHPを踏襲していますが、デザインはなるべくシンプルかつ柔かい色で統一感のある配色にすることを意識いたしました。HPの新しいロゴとファビコン(ブラウザのタブに表示されるアイコン)は、諏訪会長にご作成をいただきました。ロゴとの統一感を出すためにも、背景色はピンクにしています。スマホで見た場合にも、比較的に見やすくなっているのではないかと思います。このHPが今後の学会活動の周知につながっていく1つのきっかけになればと考えております。会員の皆さまからのご意見も随時お待ちしておりますので、よろしくお願いたします。

## 「中川記念奨励賞」候補者ならびに「奨励研究員」の募集

### 【日本保健医療行動科学会中川記念奨励賞】

中川記念奨励賞の候補者を募集いたします。受賞年度において45歳未満もしくは学会入会后10年未満の正会員で、保健医療行動科学に関する学術的研究あるいは教育を含む諸活動において、顕著な業績を上げている方が受賞の対象になります。自薦・他薦 いずれでも結構ですので、奮って応募してください。応募者は、本学会 Web サイトに掲載されている最新の「中川記念 奨励賞内規」及び「中川記念奨励賞候補者の業績についての選考内規(2023.6.17.最終改定版)」を参照の上、履歴書 及び研究業績リストを学会事務局に送付してください。2024 年度受賞の応募期限は 2024 年 3 月末日です。

### 【日本保健医療行動科学会奨励研究員】

本学会では奨励研究員の制度を設けています。これは正会員で、関連分野での研究活動を行いながらも常勤の所属に恵まれない方々のために、少しでも社会的不利益を補完・救済することを目的とした制度です。この身分を希望される方は、希望の理由と履歴書及び研究業績リストを学会事務局に送付してください。奨励研究員の呼称を認められた方は「日本保健医療行動科学会奨励研究員」の身分を用いて論文の執筆や学会発表ができます。対象者の年齢制限はなく、任期は1年間とし、状況に応じて更新が可能です。審査・登録にかかる費用は無料です。応募期限は特にありません。

## 事務局便り

●2023年度会費(2023年4月1日～2024年3月31日)及びそれ以前の会費が未納の方は、早急に「会員管理システム」よりお支払いの手続きをお願いいたします。会費納入に関してご不明な点やご相談などがございましたら事務局にご連絡ください(会員管理システム導入に伴い、会費の納入はオンラインでの銀行振込(りそな銀行宛)またはクレジットカード決済(各種)となります)。詳しくは本学会 Web サイトをご参照ください。

●理事会議事録及びニュースレター(第81号～第99号)を学会Webサイトの会員専用ページに掲載しています。会員専用ページへのリンクは会員マイページトップにあります。ニュースレター第100号以降は学会Webサイトで一般公開しています。

●退会をご希望の場合は、本学会 Web サイトから退会届の様式をダウンロードし、必要事項をご記入の上、PDFファイルをeメールに添付して事務局に送付してください(未納分の会費がある場合は、会費納入後に退会手続きを行うことになります)。

(事務局連絡先: [info@jahbs.info](mailto:info@jahbs.info))

## 編集後記

ニュースレター第108号から育休復帰

しました白土です。復帰に際し、パソコンを開くりハビ

リから始まりましたが、何とか完成することができました。今号では馬込大会長のユーモラスな大会を振り返ったお言葉や大会の報告、総会報告と文字が多くなっております。ちょっと目が疲れたら、中川先生の凜としながらも温かみのある作品をご覧ください、一休みできるようなデザインにしました。また6月からホームページが柔らかなピンクを基調としたデザインに変更いたしました。皆様のご意見やご感想を、是非お待ちしております。店頭では『食欲の秋』の品が並ぶようになりました。石川県出身の白土は加賀野菜の五郎島金時が恋しくなります🍷。皆様も楽しい秋をお過ごしください🍁

発行: 日本保健医療行動科学会 〒160-0022 東京都新宿区新宿4-1-22-702